

平成 24 年度（第 20 回）専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 東 敏昭

平成 24 年 8 月 25・26 日パナソニックリゾート大阪にて、平成 24 年度（第 20 回）専門医資格認定試験が実施されました。新しい制度に移行する前の研修医を対象とした試験で、筆記試験と口答試験からなり、基礎知識と問題対処力、経験とそれに培われた見識、集団の議論の中で意見を集約する能力、発表技能など多面的な内容を含んでいます。試験問題を以下に公開しますが、同質の問題の重複も、例えば筆記試験と口頭試験では、異なった側面をみるものとして調整のうえで採用されています。受験者にとって、実務ではメンタルヘルスが業務の多くの割合を占めるホワイトカラーの職場が主体となっているためか、危険有害業務、特に化学物質の健康影響の評価、対策についての経験、実践的知識の不足傾向があるようです。専門医制度の求める専門医は産業衛生・保健分野に幅広く精通し、高い知識・見識をもつことが期待される人材です。積極的に講習、研修の機会を捉えて必要な知識、経験を積んでいただけることを望んでいます。また、こうした機会の充実の働きかけを本委員会も行っていく所存です。

なお、今回の試験で、筆記試験などでの実地設問が、すでにウェブ上に公開されていたため、受験者の不利益にならない形で、一部採点対象外になったことをお詫びします。

今回は新制度への切り替え前の旧制度による研修を受けた方が対象の試験ですが、研修手帳の発行数からみて、受験者数が少ないのが現状です。必要な研修期間を終えた方は、指導医との相談の上、是非早期に受験していただけることを期待しています。

【筆記試験】

問題は、例年どおり、A 問題、B 問題、C 問題から構成しました。

平均点は 66.8 点で、最高が 79 点、最低が 52 点で、試験問題としては適切な難易度であったと考えています。

A 問題は専門医として必要な産業保健全般にかかわる基本的知識を評価することを目的としたもので、産業医学にかかる標準的なテキスト（今年は「産業医の職務 Q & A」産業医学振興財団）の全領域を網羅したものです。○×式を 20 問、4 択を 10 問、穴埋めを 10 問、合計 40 問を出題しました。各 1 点で最低点が 17 点、最高点が 33 点、平均 25.91 点（64.8%）でした。A1-20、A3-39 は全員が正解でしたが、A2-24、A2-28、A3-36、A3-40 は正解割合が 25% を下回っていました。

B 問題は産業医活動を展開していく上で必要な高度な知識を評価することを目的に、3つのカテゴリーの 2 問中 1 問ずつ、計 3 問（各問 10 点）を選択し、200 字程度で説明を求める記

述問題としました。35 人中、B1（調査企画・疫学）は 16 人が 1、19 人が 2、B2（物理的因子及び作業態様）では 29 人が 2 を、B3（健康管理）では 26 人が 1 を選択していました。各 10 点満点中 7 点前後の平均値でした。B 問全体の平均点は 20.1 点（67.0%）でした。

C 問題は産業医活動を展開していく上で具備すべき実践的な解決能力を評価することを目的に、B 問題同様 3つのカテゴリーの計 3 問（各問 10 点）を選択し、250 字から 300 字で記述する問題としました。C1（総括管理・職場巡視・労働衛生教育）は全員に同じ問題の回答を求め、C2（有害物質関係）では 35 人中 23 人が 1、C3（健康管理）では 35 人中 26 人が 2 を選択していました。平均点は C1 が 6.9 点、C2 が 8.1 点、C3 が 6.0 点とやや差があり、合計では 20.8 点（69.3%）でした。

試験終了直後に実施した受験生の試験問題評価アンケート結果を参考までに表に示します。各項目 5 点満点です。なお、B 問題と C 問題の記述式問題については、問題作成段階で設定し

○×問題		4 択問題		穴埋め問題		B 問題			C 問題		
問題の質	難易度	問題の質	難易度	問題の質	難易度	意図	設定	難易度	意図	設定	難易度
2.5	3.6	2.4	3.7	2.3	3.5	1.8	1.7	3.5	1.9	1.9	3.3

問題の質（1：良・・3.普通・・5：不良）、難易度（1：易・・3.普通・・5：難）、問題の意図（1：良・・3.普通・・5：不良）、問題の設定（1：自然・・3.普通・・5：不自然）

たキーワードが含まれているか否かを慎重に判断しながら、客観性の高い採点を心がけています。受験生からは自然な問題設定などと好意的な評価でしたが、専門医試験にふさわしい良問の作成に一層心がけたいと思っています。3年間同じ委員で問題作成を担当してきましたが、恒例の委員の入れ替えがあり、問題形式等は、新しい委員会にゆだねられることになります。

A1 問題

以下の文章が正しければ○を、誤りであれば×を
解答欄に記入しなさい。

- 【1】事業者は、総括安全衛生管理者、衛生管理者、産業医を選任すべき事由が生じたときは、それぞれ14日以内に選任しなければならない。
- 【2】衛生委員会は、労働災害の原因および再発防止対策等について審議するとともに、月1回以上、職場巡視を行わなければならない。
- 【3】労働安全衛生マネジメントシステムは、法令遵守に加えて、KY活動やヒヤリハットなどの現場活動を推進していくことに特徴がある。
- 【4】じん肺法は、粉じん作業の作業環境管理、作業管理と作業者のじん肺健康管理について規定している。
- 【5】第11次労働災害防止計画の目標の一つに、平成19年比で死亡者数を15%以上減少させることがある。
- 【6】チェーンソー以外の振動工具を取り扱う業務に労働者を就かせる時にも、法令に基づく安全又は衛生のための特別の教育を行わなければならない。
- 【7】紫外線は電光性眼炎を起こすことがある。
- 【8】等価騒音レベルは、騒音のある時間範囲における250、500、1000、2000、4000、8000Hzの音圧レベルの平均値で表される。
- 【9】業務上の事由による負傷等の療養で休業が4日以上に及ぶとき、休業補償は4日目から給付される。
- 【10】事務所衛生基準規則で定義される気積の計算では、床面から4メートルを超える高さにある空間は除外されている。
- 【11】常時10人以上の労働者を使用する事業場では、定期健康診断実施後、結果報告書を所轄労働基準監督署長に遅滞なく提出しなければならない。
- 【12】鉛中毒予防規則（第53条）では、血中鉛量の検査は医師が必要と認めた場合の追加検査項目となっている。
- 【13】労働安全衛生法（第66条の8）では、派遣労働者の長時間労働に関する面接は派遣先事業者を実施義務が課せられている。
- 【14】職場における心理的負荷評価表では、セクシャルハラスメントを受けた際の心理的負荷は強度「III」に分類されている。
- 【15】MSDSでは、ヒトの毒性・有害性に直接かかわらない、爆発性等の危険性についても記載・絵表示することが求められている。
- 【16】ほとんどの物質の作業環境測定記録保存期間は、健康診断の記録保存期間と同等ないし短い。

- 【17】労働安全衛生規則には、労働者のB型肝炎ウイルス抗体測定に関する規定はない。
- 【18】作業環境濃度の分布は正規型に近いことが知られている。
- 【19】砒素曝露の生物学的モニタリングとして測定すべき尿中砒素化合物は、砒酸、亜砒酸およびメチルアルソン酸の3種類である。
- 【20】汚水槽では、下水・汚物中の有機物質の腐敗によって発生する硫化水素と、同時に発生する酸素欠乏とで死亡災害が起こりやすい。

A2 問題

選択肢の中から正解を1つ選び解答欄に記入しなさい。

- 【21】健康情報の保護について誤りはどれか。
 1. 安全配慮義務の観点から労働者の健康情報を事業者を提供する場合も、まずは労働者の同意を得よう努力すべきである。
 2. 国の疫学研究に関する倫理指針によれば、既存資料のみを用いる観察研究の場合、対象者からインフォームド・コンセントを受けることは必ずしも必要としないが、研究の目的など研究の実施についての情報は公開しなければならない。
 3. 社員から同僚や部下についての相談を受けたときは、相談者から対象者の状況を詳しく聞いたうえで、産業医は考えられる診断や治療について助言をする。
 4. 医療職同士は、専門的判断および診療を実施する目的で、必要な健康情報を相互に提供することができる。
- 【22】職場巡視について誤りはどれか。
 1. 巡視前に、製造工程や業務プロセス、機械や設備の配置、作業環境測定結果、作業管理の状況、健診結果等を把握しておく。
 2. 巡視中は、労働者から積極的に話を聞き、作業環境や作業方法の問題点等についての情報収集に努める。
 3. 同行者や現場責任者に確認の上、安全通路以外の個所にも入り実際の作業の様子を見るように努める。
 4. 巡視後は、職場責任者を交えて講評を行い、そこで確認した事項を記録に取りまとめるのがよい。
- 【23】女性労働について誤りはどれか。
 1. 女性の重量物取扱いの持ち上げ能力は、一般に男性の40%程度とされている。
 2. 腰部保護ベルトは腹圧を上昇させるので、妊産婦の着用は望ましくない。
 3. 妊娠中の女性は、骨盤底への負荷軽減のため、長時間立位作業は避けた方がよい。
 4. GHS分類の母性項目には生殖毒性と生殖細胞変異原性がある。
- 【24】労働基準法における労働時間について正しい説明はどれか。
 1. 労働時間が8時間を超える場合は、少なくとも45分の休憩時間を労働時間の途中に与えなければならない。
 2. 事業場を異にする場合には労働時間は通算しない。
 3. フレックスタイム制の精算時間は3か月以内である。

4. 管理監督者にあたる者は、行政官庁の許可を受けなくても、労働時間に関する規定は適用されない。

[25] 二次健康診断等給付の説明で誤りはどれか。

1. 当該労働者からの請求に対して給付される。
2. 血圧、脂質、糖代謝、BMI の全てが異常所見であることが要件になる。
3. 給付を受けるためには、二次健康診断等指定医療機関で受診する。
4. 要した検査費用は本人の一時立て替えの償還払いである。

[26] 赤外線曝露による業務上疾病として法規に例示されていない疾患はどれか。

1. 網膜火傷
2. 白内障
3. 前眼部疾患
4. 皮膚疾患

[27] 正しい組合せはどれか。

1. 原子炉作業———脳腫瘍
2. メッキ作業———鼻腔癌
3. 染料取り扱い作業——胃 癌
4. コークス炉上の作業——肝 癌

[28] 作業環境測定の規定について正しい説明はどれか。

1. 全ての作業場の測定は、作業環境測定士が行わなければならない。
2. 管理濃度が示されていない化学物質の場合、許容濃度を用いて評価する。
3. 環境中濃度が正規分布する場合、算術平均、算術標準偏差を用いて評価値を求める。
4. 二年以上続けて第一管理区分となった単位作業場では、簡易測定法による測定が許される。

[29] 有害物質による職業性疾病的の予防対策の基本について誤りはどれか。

1. 有害性のある化学物質から規制対象になっていない化学物質に変更する。
2. 健康管理上その業務につけることに問題のある者を就業させないようにする。
3. やむを得ず使用する有害物質は排気装置等を利用するなど、安全な環境を確保する。
4. 発生源の隔離、自動化、局所排気などにより有害物質との接触は可能な限り少なくする。

[30] 粉じん作業従事者の健康管理について誤りはどれか。

1. 有機粉じん取扱い作業者は、じん肺法が定めるじん肺健康診断の対象外になっている。
2. じん肺管理区分 2 又は 3 の退職者は、所轄労働局長からじん肺健康管理手帳の交付を受けることができる。
3. 粉じん作業に従事する労働者でじん肺所見のない者に対するじん肺健康診断は、通常 3 年に 1 回行う。
4. 石綿障害予防規則による健康診断を受ける石綿取扱い作業員に対しては、じん肺健康診断の実施が免除される。

A3 問題

[31] から **[40]** に適切な語句を記入しなさい。

- [31]** WHO/ILO の合同委員会報告書 (1950) は、産業保健の目的を「仕事と人との () を図ること」としている。

- [32]** 海外派遣労働者に推奨される予防接種の中で、全ての開発途上国が対象となるのは A 型肝炎と () である。

- [33]** 成人男性が自力で取り扱う重量物の安全な重量は、体重の () % 以下と考えられている。

- [34]** 次の式で表される $A_{(8)}$ は、() という。

$$A(8) = a \times \sqrt{\frac{T}{8}} \quad [\text{m/s}^2]$$

(注) a [m/s^2] は周波数補正振動加速度実行値の 3 軸合成値、 T [時間] は 1 日の振動ばく露時間

- [35]** 労働者災害補償保険法 (第 1 条) は、「労働者災害補償保険は、業務上の事由または () による労働者の負傷、疾病、障害、死亡等に対して」必要な保険給付をすることをしている。

- [36]** 電離放射線にさらされる業務によるいわゆる職業がんとして、白血病、肺がん、皮膚がん、()、甲状腺がん、多発性骨髄腫または非ホジキンリンパ腫が、法規で例示されている。

- [37]** じん肺健康診断の健康診断個人票の保存年数は () 年である。

- [38]** スチレンの生物学的モニタリングとして () が測定される。

- [39]** 本人の () と、復職を可とする主治医の判断は、メンタルヘルス不調で長期休業した労働者の職場復帰の可否を検討する際の前提条件となる。

- [40]** 事業者や ()、衛生管理者、現場の技術者、作業主任者、作業員などのすべての人たちと連携を取りながら、職場における健康に有害な全ての要因を見つけ出してそれらを排除し、更に一歩進めて働きやすい適正な作業環境を作り上げ、労働者の健康の確保と増進を図り、より充実した健康作り対策を展開していくことが産業医に与えられた課題の 1 つである。

B1 問題

[1] か **[2]** のいずれか 1 問を選び解答欄に記入しなさい。

- [1]** あるオフセット校正印刷会社の元従業員が高頻度で胆管がんを発症し、男性 4 人が死亡していた。校正印刷は、大量印刷前に少数部数を印刷し、誤植や発色などを確認する作業である。洗浄剤には 1、2-ジクロロプロパンやジクロロメタンを含む有機溶剤が使われていた。校正印刷を主とする工場では、頻繁に色や版を替え、道具や機械のインキを落とす必要があるため、洗浄剤の使用量が多い傾向がある。本事例の洗浄剤と胆管がんの因果関係を調べるための疫学調査計画を 200 字前後で記述しなさい。

- 【2】 下図は N Engl J Med 2005; 352: 1951-58 に掲載された図（一部改変）である。この図から読み取れる結果を要約するとともに、日常の健康管理にどのように活用すればよいか、200 字前後で記述しなさい。

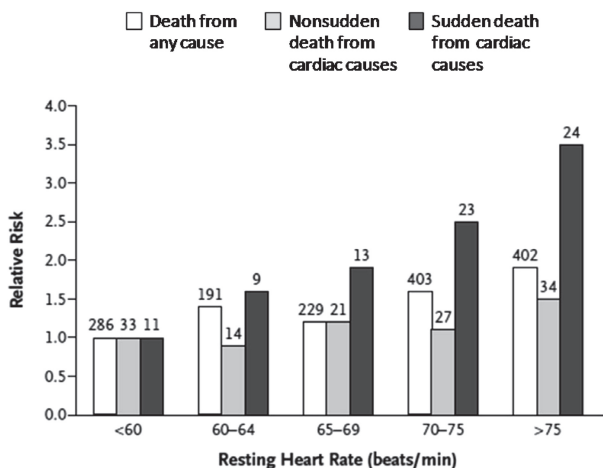


Fig. 1. Relative Risks of Death from Any Cause and of Nonsudden and Sudden Death from Myocardial Infarction, According to the Quintile of Resting Heart Rate.

The reference group was subjects with a resting heart rate of less than 60 beats per minute (lowest quintile). The numbers over the bars indicate the numbers of subjects. Comparisons were performed with the Mantel-Haenszel chi-square test for trend. The test for trend showed a significant difference among quintiles with respect to the risk of death from any cause ($P < 0.001$), nonsudden death from cardiac causes ($P = 0.02$), and sudden death from cardiac causes ($P < 0.001$). Adjustments were made for age, use or nonuse of tobacco, level of physical activity, presence or absence of diabetes, body-mass index, basal systolic blood pressure, cholesterol level, presence or absence of a parental history of sudden death or myocardial infarction, and exercise duration. Data are missing for five subjects who died of any cause, including one who died suddenly from myocardial infarction.

B2 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

- 【1】 ある騒音工場での耳栓着用効果を検討するために、連休明けの就業の開始前と終了直後に聴力検査を実施した。作業中は、耳栓（NRR 29dBA）をいつも通りに着用することを指示した。協力が得られた18名（男性で平均年齢46歳）の結果は表の通りであったが、一過性聴力低下のばらつき（SD）が目立つ。考えられる理由とその対策を200字前後で記述しなさい。

18人	0.5 kHz	1 kHz	2 kHz	4 kHz	6 kHz	8 kHz
作業開始前	Mean 19.7	10.6	11.7	25.0	28.3	29.7
作業終了直後	Mean 22.2	13.3	17.2	36.9	33.9	33.1
一過性聴力低下	Mean 2.5	2.8**	5.6**	11.9**	5.6**	3.3*
	S.D. (6.9)	(4.3)	(5.7)	(13.2)	(5.7)	(7.9)

（作業時間 214 分, Leq94.4dBA), * $P < 0.05$, ** $P < 0.01$

- 【2】 VDT 作業従事者に起こりやすいとされる3つの疲労について、VDT 作業に特徴的な作業内容と、それに伴う生体

負荷の性質を関連させて200字前後で記述しなさい。

B3 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

- 【1】 男女雇用機会均等法における母性健康管理措置として挙げられている4項目について200字前後で説明しなさい。
 【2】 平成14年の道路交通法の改正で、精神疾患等一定の病気にかかっている人は運転免許を取得できないという欠格事由が廃止され、安全な運転に支障があるかどうかは個別に判断されるようになってきている。一定の病気に関わる運転免許取得または更新時の手続きと、免許が取得できない状態について、200字前後で説明しなさい。

C1 問題

解答欄に記入しなさい。

橋脚解体作業のスナップ写真である。このような作業の有害要因を全てあげ、それら要因ごとに対策を記述しなさい（250字から300字）。



C2 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

- 【1】 ゆで麺製造ラインで、麺の冷却水槽の殺菌のために、水槽に付設された薬液タンクに次亜塩素酸ナトリウム溶液を注入しようとして、薬液タンクの横にあった乳酸溶液（麺腐敗防止剤）タンクに誤って注入したことから、塩素ガスが発生し、これを吸い込み喉の痛みを訴えるという労災事故が発生した。再発防止策を250字から300字で記述しなさい。
 【2】 あなたが産業医をしている精密機器加工業の会社は、タイのハイテク工業団地に製造工場があり、海外駐在員も数名いる。1か月前の大洪水で同工場の1階部分は完全に水没してしまった。1週間前から徐々に水が引き始め、本格的な復旧活動の準備に取りかかりつつある。日本国内からも復旧要員を出す予定になっているが、産業医と

して衛生対策について意見を求められた。洪水からの復旧作業にあたり、衛生上の問題点と対策を250字から300字で記述しなさい。

C3 問題

【1】か【2】のいずれか1問を選び解答欄に記入しなさい。

- 【1】心臓に障害（身体障害者手帳3級）を持つ男性が、家電量販店に身体障害者枠で採用され、店内で販売業務を担当していたが、入社1か月後に不整脈で死亡した。月33時間の時間外労働をしていたことを理由に、業務が過重だったとして労働災害とする判決の報道があった。現在、あなたが産業医をしている企業にも心臓に障害を持つ従業員が数名おり、業務上の配慮はされつつも、月20～30時間程度の残業をしていた。この判例を受けて、心臓機能障害を持つ従業員の健康管理について今後どう対応すべきか、250字から300字で記述しなさい。
- 【2】45歳男性。製造業の生産ライン作業に従事。仕事ぶりはまじめだった。もともと酒好きで付き合いもよく、毎日焼酎を4～5合飲んでいたが、この数年、健康診断でγ-GTPの上昇が認められ、飲酒量を減らすよう指導を受けていた。半年前にラインの副責任者を任され、通常業務に加えて管理業務が加わった。この頃より、休み明けの欠勤が目立ち始め、顔色もすぐれず、酒のおいさをさせて出勤してくることがあった。仕事のミスが目立ち始め、上司の部長から産業医（あなた）に相談があった。部長の希望もあって本人と面接し、退社後から寝付くまで飲酒していること、休みの日は昼間から飲んでいて、かかりつけの医師（内科医）からは酒量を控えるように言われていること、自分でも控えればよいと分かっていること、などが聴取された。面接時、軽度の手指振戦が認められた。あなたは、「完全に酒をやめることが必要。できなければ専門病院での入院治療も必要」と指導した。本人は今後一切酒を飲まないと約束したが、1ヵ月後、再び部長から連絡が入る。「一週間ほど無断で休んでいる。実は、前回の面接以来、しばらくしてから2～3日の無断欠勤が2度ほどあった。つい酒を飲んでしまったということだった。本人が酒はやめるといっているので様子を見ていたが、これ以上許容できない。医者に行くように言うが拒否的である」と言う。どのように対応すべきか250字～300字で記述しなさい。

【口頭試験】

口頭試験では、産業医に必要とされる個別の知識と関連領域の知識との整合性や総合性を試験するとともに、専門医に要求される産業医経験の程度、産業現場での問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性を評価することを目的としました。

例年と同じく、【A1口頭試問】、【A2グループ討議】、【B課題発表】の3種類の口頭試験が、各6名、5組のグループで実施されました。

A1口頭試問では、問題ごとに大きな分類から小さな各分野へと話を進めるように回答していただきます。産業保健に関連する基本的な事項を正確に理解、整理して記憶することと同時に、最新の通達やガイドライン等の内容についても十分に理解しておくことが望まれます。

A2グループ討議では、必ずしも正解があるわけではないような問題について、問題への対処法をグループの考えとして発表していただきます。課題の設定条件をよく読みとり、問題解決に至るプロセスをグループ内でディスカッションし、その結果を発表していただきます。各受験者には、この共同作業グループの一員として積極的に貢献することが求められます。

B課題発表では、受験者個人ごとに設定された問題の解決に関連する事項を適切にまとめ、安全衛生委員会などを想定して、簡潔で解りやすく発表することが求められます。手持ちの資料類は参照できますが、平成24年度の試験では、インターネットの利用は行ってはならないことにしました。

口頭試験全体として、産業医としての総合力、特にコミュニケーション能力を重視した評価を行いました。

A-1 口頭試問：基礎知識を問う問題

1. 労働安全衛生法第66条について解説してください。
2. 「心理的負荷による精神障害の認定基準について」解説してください。
3. 女性労働基準規則の改正内容について解説してください。
4. 職場での熱中症予防対策を推進する上での留意事項について述べてください。
5. 呼吸用保護具について知るところを述べてください。
6. 粉じん障害防止規則及びじん肺法施行規則で定められている粉じん作業とは何かを述べてください。
7. 有機溶剤中毒予防規則の改正内容を解説してください。
8. 日本産業衛生学会が勧告している許容濃度等について、その性格及び利用上の注意について述べてください。

A-2 グループ討議

1. 昨年、大阪地裁で、自律神経失調症で休職中の男性が、面談中の産業医の不注意な言動により病状が悪化して復職が遅れたとして産業医に対し損害賠償請求を起し、産業医が敗訴する判決がありました。産業医が民事訴訟の対象となる可能性に対して、どのような対応、対策を取ることが適切か検討してください。
2. 従業員の約7割が女性である小型電気製品の組み立て工場です。主にコンベアで運ばれてくる製品へのパーツの埋め込み作業において、これまで座位で行われていた作業を、作業の効率化、生産性の向上の視点から、立位作業に変更することの可否について安全衛生委員会で話題になりました。想定される作業の特徴を考慮した作業管理上の留意事項について検討してください。
3. 従業員640名の事業場で、人事部門から「抑うつ状態」の診断で休職中の43歳女性社員について、あと3ヶ月で休職期間満了になるが、本人が復職したいと言ってきたことについて相談がありました。この事業場では、これまで休職

期間満了で退職となった事例はなく、人事部門の担当者も困惑気味です。これまで3回同じ病名で休職していますが、産業医である貴方はその社員とはこれまで一度も面談をしたことがなく、休職していることも知りませんでした。今後の対応について検討して下さい。

4. 従業員600人の医療機器メーカーにおいて、従業員の喫煙率を下げるためにこれまで様々な禁煙支援活動を行ってきましたが、ここ2、3年は喫煙率が下げ止まっています。ある月の安全衛生委員会で、組合代表委員から「タバコが健康にも良くないことはみんな知っているし、仕事にも差し支えるので、少なくとも社内では勤務時間中は昼休みも含め禁煙とすべきではないか」との発言がありました。しかし、喫煙者でもある部長は「ストレス解放の意味もあって、仕事の能率にも影響する。社内一斉禁煙というのは無理があるのではないか」と譲りません。産業医としてどのような対応が適切であるか検討してください。
5. 外資系会社の31歳の営業職社員で、入社8年目でした。仕事ぶりについて上司の評価は悪くはありませんでしたが、時間外労働や出張が続くと疲労、倦怠感で休みがちになり、自らメンタルクリニックに通院していました。嘱託産業医としてあなたは2ヶ月ごとに面談し、上司と本人に対し、時間外労働、出張等で体調をくずさないようにと指導してきました。上司がキャリアアップのため昇格研修に入ることを勧めたところ、本人は是非頑張りたいとの返事でした。その1週間後、通勤途中にあるマンション10Fから飛び降り自殺してしまいました。このような事例を予防するための「こころの健康づくり対策」を検討してください。

B 課題発表

1. あなたは従業員45,000人の電力関連企業の総括産業医です。ある地域で大地震が発生し、ライフライン復旧のためにあなたの会社から100人を超える従業員を派遣することになりました。派遣時期が迫っており、急遽人事部から、災害復旧派遣について、産業医の意見を聞きたいとの連絡を受けました。要点を10分間にまとめてプレゼンテーションを行ってください。
2. あなたはある機械メーカーの嘱託産業医に就任し、1ヶ月に2回勤務し始めたところです。全従業員数は450名で、組織は人事・総務・経理部門と製造部門に分かれています。定期健康診断は実施されているものの、事後措置は十分に実施されていないようで、ある従業員は高血圧症を指摘されたものの医療機関の受診に至らず、突然、脳梗塞で倒れ半身不随となったそうです。また、他の従業員も胃潰瘍からの出血により貧血で倒れ、機械に頭部を打撲しそうになったこともあるとのことでした。そこで、社長から定期健康診断の事後措置として、疾病がある人への保健指導と就業判定の基準を決めてもらい、従業員の健康管理や安全に役立てたいとの依頼がありました。社長、工場長、人事・経理部長に10分間でプレゼンしてください。
3. あなたは全社員が約5,000人、日本全国に事業場が9箇所に分散している企業の本社の産業医として着任しました。

各事業場にはそれぞれ嘱託産業医がおり、本社には800人の従業員がいます。昨今、各事業場とも休業事例の対応で苦慮し、嘱託産業医のみでは適切な対応が取れないという判断で本社に専属の産業医を配置したという背景があります。現時点の産業保健スタッフは、本社に保健師（フルタイム）が1名おり、衛生管理者を兼ねています。なお、本社では、全社員の健康診断データをシステム管理しており、また各事業場で発生した傷病休業者（氏名・生年月日・傷病名・休業開始日）は本社に報告されるようになっていますが、それらのデータを集計したことはありません。また、安全衛生委員会（衛生委員会）は各事業場で実施されていますが、あまり有効には活用されていないようです。今後どのような施策を展開していくかを検討し、本社の安全衛生委員会で10分間にまとめて説明して下さい。

4. あなたは、従業員1,500人の金融業の専属産業医です。メンタルヘルス対策の一環として、あなたが講師となり、ライン管理者全員に2年に1回の頻度でメンタルヘルス研修を繰り返しています。多くのライン管理者が、一般的なうつ症状の社員に対する対応は理解ができてきたようで、メンタルヘルス不調者の早期発見と事例への対応は、ライン管理者と産業医が協力してかなり適切に行えるようになってきました。最近、いわゆる「新型うつ病（状態）」の社員への対応について、多数のライン管理者から問い合わせがあり、時を同じくして衛生委員会でも話題になりました。衛生委員会で討議した結果、新入社員向けにできることや適切な方策を考えてほしいとの要望がありました。次回の衛生委員会で、新入社員向けメンタルヘルス対策の概要を10分間で説明してください。
5. あなたは従業員数130人のグラビア印刷工場の産業医です。作業環境測定結果が第3管理区分となることはここ数年見られませんが、有機溶剤健康診断では、毎回2、3名の労働者の尿中馬尿酸濃度が分布3に分類される結果となります。過去には衛生管理特別指導事業場に指定されたこともあり、アルコール系の溶剤を導入するなど、いろいろ工夫もしているのですが、印刷の仕上がり品質を維持するために溶剤使用量をこれ以上は減らせないようです。印刷会社の元従業員に胆管がんが多発し労災申請したという報道に接し、我が社は大丈夫だろうか、何かした方がよいのではないかととの相談が人事部長からありました。産業医としての意見を10分間でプレゼンテーションして下さい。
6. あなたは従業員150人の、惣菜や弁当などを製造する食品製造業の嘱託産業医です。従業員は40～65歳の女性従業員が主体で、多くの作業者がパートタイム労働者です。始業が午前4時で、作業場には大型の食品庫、大型加熱調理機器や、食品の大型カッターがあり、一部の工程では手作業による食材の調理や、卓上で惣菜をお弁当に詰めるなどの作業をしています。今まで、社員向けの労働衛生教育は実施していませんでしたが、社長から、夏場の需要期に向けた従業員全体の集まりで、30分程度の従業員教育をしてほしいとの要請がありました。その概要を10分間にまとめて社長に説明してください。